

秋田がベストと考えると いい出会いも発見も 次々とつながるんです



**化粧品の安全性を
秋田美人モニターでテスト**

インターフェイス株式会社/
秋田県秋田市
野澤一美さん(44歳)

のざわ・かずみ / 埼玉県出身。短大卒業後不動産系金融会社に就職。米国留学中に出会った会社で11年勤務。化粧品コンサルタントを経て、2006年インターフェイス株式会社を設立。年商約7500万円 (2009年度見込み)。
<http://clinical-testing.jp/>

試験に協力するモニターの皆さん。
この肌こそ秋田美人の証し!

**高認知度で好印象の
「秋田美人」を売りに**

「テストの際に赤みが目立つので、白くきめ細かい秋田美人の肌が向くんです」。冬が長い、特有の気候がその肌をはぐくむという説も。秋田美人の肌で試験をすると商品イメージの向上につながるというメリットも顧客は感じるようだ。

写真上 / 県庁時代のオフィス 下 / 現オフィス内のラボ (試験を行う部屋)

**県の支援制度活用で
助成金と信用を獲得**

創業時には県の創業支援制度を活用。開業資金の助成を受けただけでなく、「県庁内にオフィスを借りたことで事業の信用度が増した」。日本では知名度の低い事業だけに、特にモニター集めの際などは、県のお墨付きが功を奏した。

**自称「アホオ」から
起業家への鮮やかな転身**

「アホオだったのよ、私」。アメリカ留学も「カッコよく退職するには結婚か留学しかなかった(笑)」というのが本当のところ。そんな動機で渡米した野澤さんだったが、現地で偶然、化粧品の安全性をテストする「クリニカル試験」を受託する会社に出合った。「その会社で仕事の楽しさに目覚めた」彼女は、この事業を日本でやりたいと考え始める。そんな折、友人の話で秋田県の創業支援制度を知った。さらにここには上質な肌を持つ秋田美人がいる。秋田には縁もゆかりもなかったが、この偶然を見逃さなかった。起業して4年目を迎え、取引先からの評価も上々だ。

「ただラッキーだっただけ」と謙遜する彼女だが、こうも言う。「人材不足など地方のデメリットはあります。でも、現にクリニカル試験を行うには、特有の気候や秋田美人の存在など、秋田にいるメリットは実は多いんです。「秋田がベスト」と思うこと、それがベストなんですよ〜」。